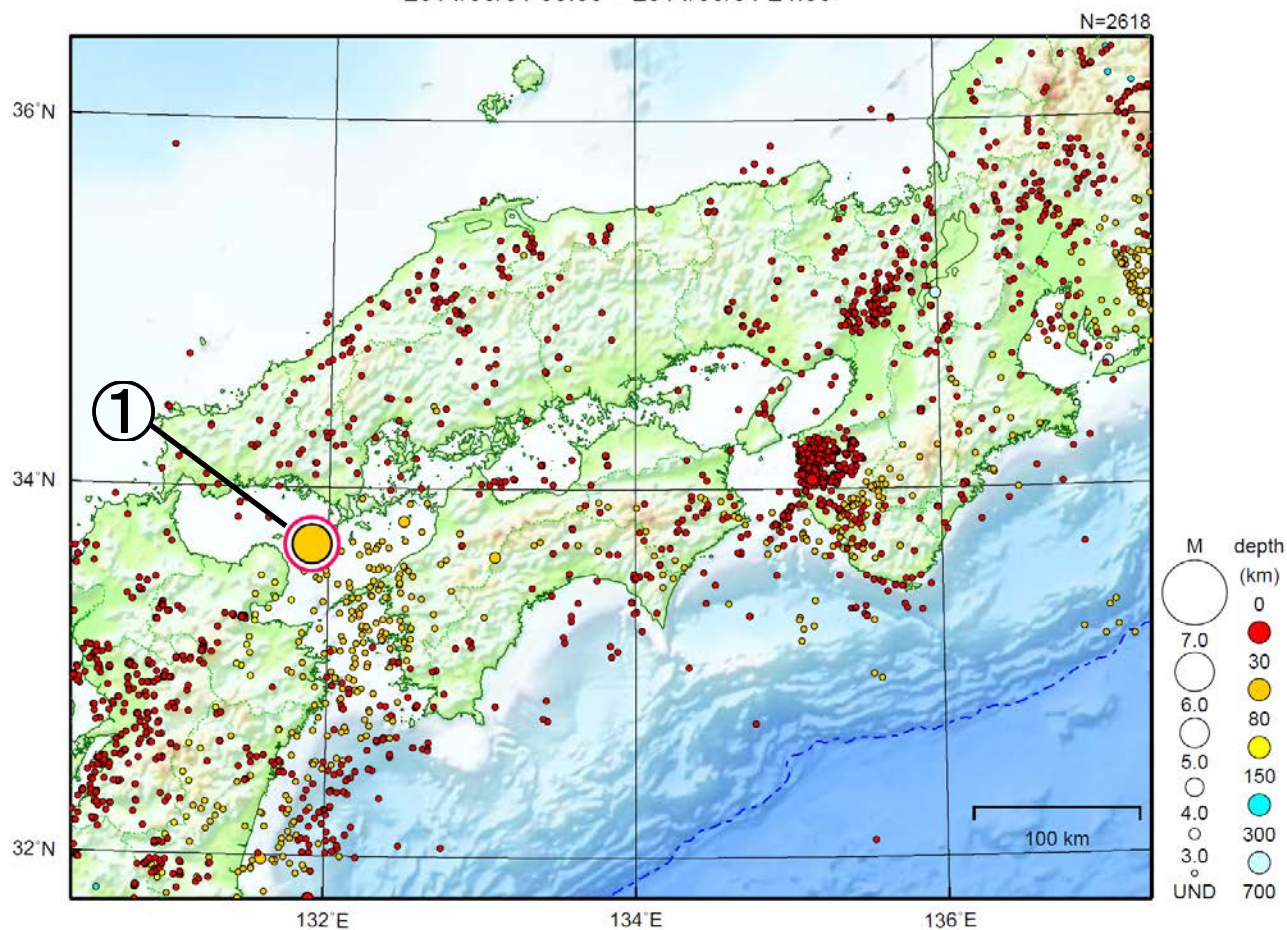


近畿・中国・四国地方

2014/03/01 00:00 ~ 2014/03/31 24:00



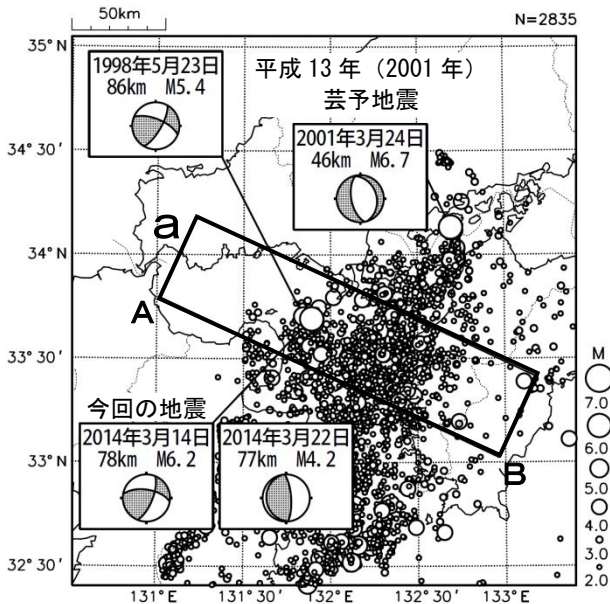
地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- ① 3月14日に伊予灘で M6.2 の地震（最大震度 5 強）が発生した。

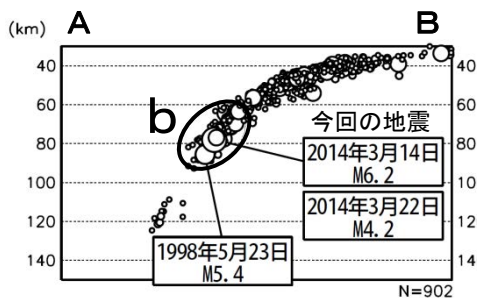
[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

3月14日 伊予灘の地震

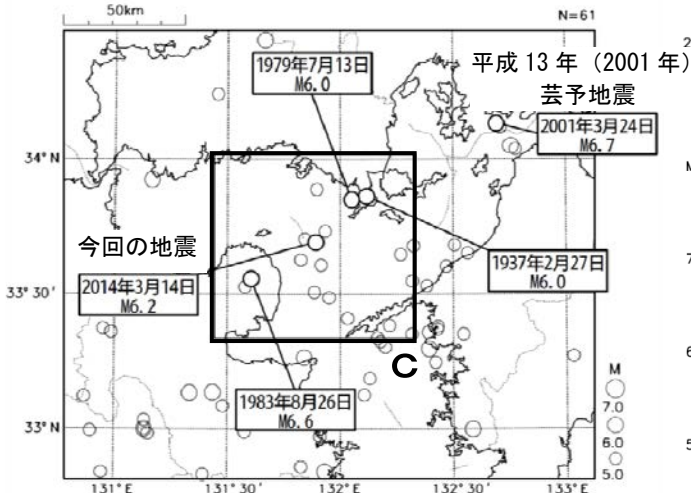
震央分布図
(1997年10月1日～2014年3月31日、
深さ30～150km、 $M \geq 2.0$)



領域a内の断面図（A-B投影）



震央分布図
(1923年1月1日～2014年3月31日、
深さ0～150km、 $M \geq 5.0$)

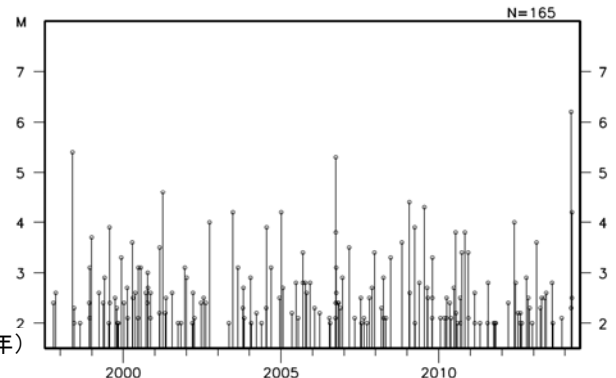


2014年3月14日02時06分に伊予灘の深さ78kmでM6.2の地震（最大震度5強）が発生した。この地震は、発震機構が東北東-西南西方向に張力軸を持つ型で、沈み込むフィリピン海プレート内部で発生した。この地震により、広島県や愛媛県などで負傷者21人、住家一部破損26棟の被害が生じた（3月14日現在。総務省消防庁による）。余震活動は低調で、3月末までに震度1以上を観測した余震は、3月22日に発生したM4.2の地震（深さ77km、最大震度3）のみである。

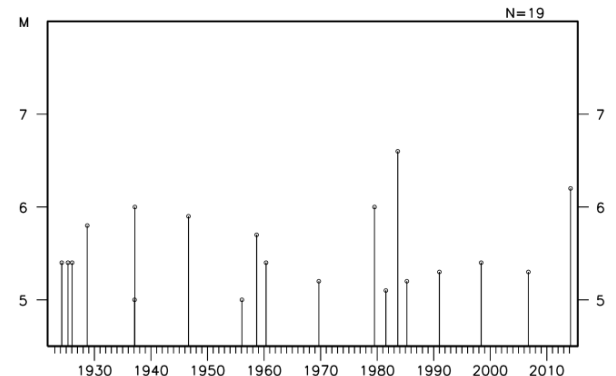
1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（領域b）では定常的な地震活動がある。1998年5月23日にM5.4の地震（最大震度4）が発生しているが、M6.0以上の地震は今回が初めてである。また、今回の地震から北東に約100km離れたところで、「平成13年（2001年）芸予地震」（M6.7、最大震度6弱）が発生している。

1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近（領域c）では、1983年8月26日にM6.6の地震（深さ116km）が発生し、広島県市内で負傷者1人、ガラス破損、山崩れなどの被害が生じた（「最新版 日本被害地震総覧」による）。

領域b内のM-T図



領域c内のM-T図



この地震により、松山地方気象台は震度5強を観測した西予市（愛媛県）に、広島地方気象台は震度5弱を観測した呉市（広島県）に気象庁機動調査班（JMA-MOT）を派遣し、地震動による被害状況について現地調査を実施した。その結果、西予市においては道路の亀裂や民家の屋根損傷等、呉市においては住家の外壁損壊等の被害が見られた。



図1 現地調査実施地域 周辺図（愛媛県）

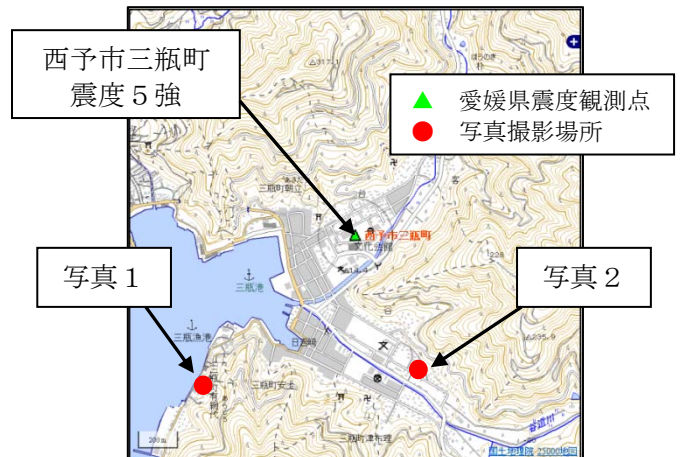


図2 現地調査実施地域 周辺図（愛媛県西予市）



写真1 道路の亀裂（西予市三瓶町）



写真2 民家の屋根損傷（西予市三瓶町）

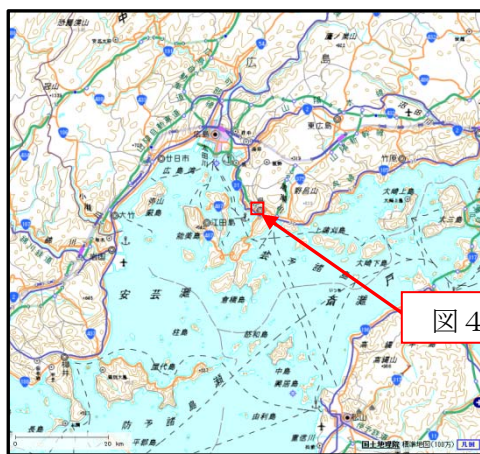


図3 現地調査実施地域 周辺図（広島県）

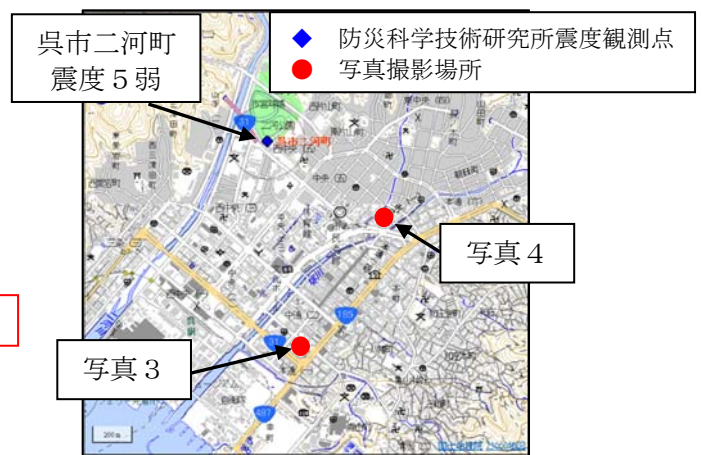


図4 現地調査実施地域 周辺図（広島県呉市）



写真3 住家外壁の損壊と落下（呉市中通）



写真4 住家外壁の損壊と落下（呉市東中央）